

文化財表示板について

宇都宮市では、歴史や文化財を次世代に伝えるとともに、歴史の薫りのする魅力あるまちを創造するために、市内を7つのエリアに分け、文化財表示板を設置しています。

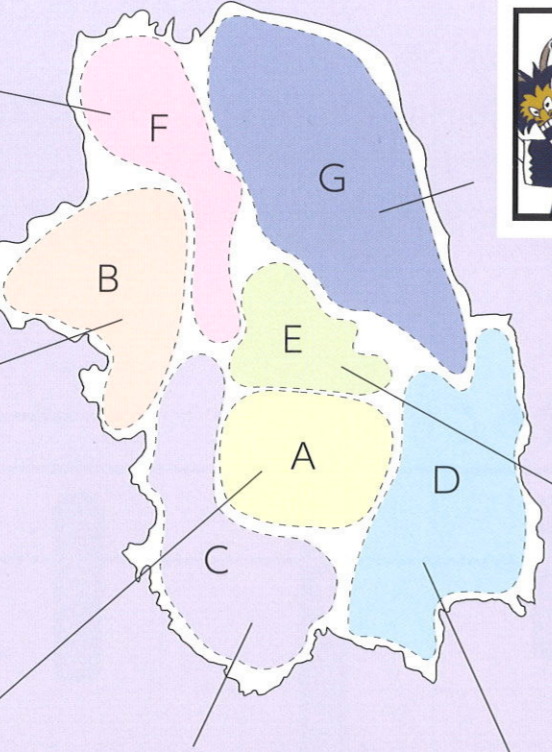
F 日光街道沿い地区
時代を刻む道・日光街道



B 大谷地区
石の里



A 市中心部地区
宇都宮の軌跡



G 河内・上河内地区
奥州道中と伝統文化の里



E 北山・長岡地区
まほろばの里



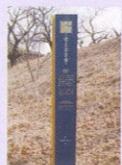
D 市南東部地区
武士の夢ヶ原



C 根古谷台・市南部地区
エリア名称：『古代史の回廊』



◎説明サイン
文章や写真・絵図で、指定文化財を紹介しています。



◆誘導サイン
コース沿いの見どころの近くや道路が分岐する付近に立っています。矢印と文字で行き先を案内します。



中鶴田の大フジ ■ B・3



フジは、マメ科に属するつる性の落葉樹で、本州・四国・九州の山野に自生していますが、観賞用として庭園にも植えられています。

このフジは直径約60cmのエノキに絡まっており、自然の形をよく残しています。地上をはうように伸びている幹は、このフジが絡みついていた樹木が枯れて倒れたときに、いっしょに落下したものと思われます。

古木ではありますが、4月下旬ごろ、日当たりのよい樹冠部南側に花を咲かせます。

[市指定天然記念物]

すがたがわだいいちしょう 姿川第一小のフジ ■ C・3



フジには、多種類ありますが、このフジは野田藤という種類です。山野に自生しますが、盆栽や庭園などの観賞用にも植栽されています。幹はつる状で長く伸び、他の植物等に右巻きに絡んで成長します。

このフジは、樹齢150年に及ぶ古木でありながら、樹勢がよく、4月ごろに90cmにもおよぶ見事な花房をつけます。

[市指定天然記念物]

ハッチョウトンボ及びその生息地 ■ A・3



ハッチョウトンボは、日本で最も小さいトンボで、体長はわずか15~20mmです。雄は赤く、雌は黒色に黄色の斑点があり、翅は付け根から三分の一がオレンジ色で、美しい姿をしています。県内では主に平野部の湿地で見られますが、宅地化が進んでいる宇都宮市内では珍しく、生息地である鶴田沼は、良好な自然環境が残されているといえます。

[市指定天然記念物]